

義務教育学校

始まりました

義務教育学校開校までの流れ

2015年（平成27年）当時、本町には、いずれも小規模の小学校4校、中学校2校があり、次世代教育を目指し、小規模校の特色を生かした教育施策「学校間の連携授業（RG授業）やキャリア教育」を推進してきました。

また、GIGAスクール構想に先駆けて、2017年（平成29年）から全小中学校のICT環境を整備し、1人1台のiPadを全児童生徒および全教職員に貸与し、現在では、ICT機器活用の日常化が定着しています。

そのような取組をしていく中、保護者や地域住民から小規模化した学校での教育活動や学校の存続を心配する声が聞かれるようになりました。そこで、町教育委員会では、2018年（平成30年）に「川根本町立学校設置適正化及び教育のあり方検討協議会および研究会」を設置し、2年間をかけて協議会、研究会を実施しました。

また、保護者や地域住民を対象に「子育て、教育に係る意見交換会」を実施し、様々な意見をいただきました。

義務教育学校とは

義務教育学校は、小学校と中学校がひとつの学校となり、1年生から9年生までの9年間一貫して教育を行うことができる学校です。

特徴として

- ①小中の先生が、小中の児童生徒に、どちらも指導、かかわることができます。
- ②小中の枠を超えた、いろいろな学年との活動が可能となります。
- ③自分の目標や将来の進路に向けて、1～9年生の中で継続的に考えることができます。
- ④「川根本町の特色を生かした」新しい教科の実施、指導内容の入れ替えも可能です。

学校教育法の改正により、2016年（平成28年）から義務教育学校が全国の市町村に設置できることになりました。2023年（令和5年）には、全国で207校の義務教育学校が開校しています。ここ数年は、全国で毎年20校ほど増加し、静岡県内では土肥小中一貫校が2019（平成31年）に開校し、本町の2校が県内で2番目、3番目の義務教育学校となります。

義務教育学校開校に向けた経緯

2015年	小規模校の特色を生かした連携授業とキャリア教育の実施
2017年	ICT機器を活用したGIGAスクールの導入
2018年	教育のあり方検討協議会・研究会の設置
2019年	子育て、教育に係る意見交換会の実施
2020年	義務教育学校2校への再編の答申
2020年	川根本町の学校の方向性説明会の実施
2021年	教職員によるプロジェクトワーキングの開始
2022年	学校再編説明会の開催
2023年	義務教育学校設置条例の可決
2024年	「三ツ星学園」「光の森学園」の開校

これらの意見を踏まえ、協議会は2020年（令和2年）3月「持続可能なまちづくりの視点から、義務教育学校2校への再編が適切である」という答申を示しました。

町教育委員会では、この答申に基づき、2020年（令和2年）4月から、学校の方向性説明会を実施しました。

また、学校現場では、2021年（令和3年）から教職員全員が参加するプロジェクトワーキングを開始し、保護者や地域代表が参加した協議会では「川根本町の教育の共有ビジョン」「目指す児童・生徒像」「児童・生徒に育みたい資質や能力」についてまとめ、学校再編計画を進めました。

更に、2022年（令和4年）8月から9月にかけて、学校再編説明会を再度、町内8か所において行い、改めて本町が目指す学校再編計画について説明を重ねました。

その後、9月までの町議会において、学校設置条例の一部改正が可決、2023年9月議会で義務教育学校設置条例が可決され、2024年（令和6年）4月「三ツ星学園」と「光の森学園」の義務教育学校が、2校同時に開校しました。